

信頼されるリーダーになるための 10 項目チェックリスト

1. 判断の目的は「ほめられるため」ではなく「チームのため」か？
→ 自分の行動が他者の期待ではなく、チームの目的に沿っているかを振り返ろう。
2. 自分の主観は、誰かの役に立つ視点と結びついているか？
→ 独りよがりではなく、貢献を軸にした主観になっているかを確認しよう。
3. 最近の判断は「誰かの課題を解決する橋」になっていたか？
→ 自分の考えが、誰かの前進を支えるものだったかを見直そう。
4. 「誰か」とは誰かを明確に意識しているか？
→ 部下、上司、顧客など、状況に応じて焦点を定めているかを確認しよう。
5. チームの目的を言語化できるか？
→ 「何のためにこのチームは存在するのか」を自分の言葉で説明できるかが鍵。
6. 判断の基準は「目的への効果」になっているか？
→ 評価や好感ではなく、実質的な成果につながるかを基準にしているかを点検しよう。
7. 上司や部下の期待に流されず、目的に立脚した判断ができているか？
→ 現場の現実と上層の意向がぶつかる場面で、目的を軸に行動できているかを振り返ろう。
8. 厳しい判断を避けず、必要なことを伝えているか？
→ 無難な対応ではなく、チームの成長に必要な指摘や決断をしているかを確認しよう。
9. 「信頼される人」としての一貫性を保っているか？
→ 意見がぶつかっても筋を通し、誠実に行動し続けているかを見直そう。
10. 評価を求めるのではなく、信頼を築く行動ができているか？
→ 表面的な好感ではなく、目的に基づいた行動によって信頼を得ているかを自問しよう。